

学習・教育目標	関連する基準1(f)(a)～(h)の項目	評価方法	備考
(A) 教養: 地球的視点で自然・環境を考え、歴史、文化、社会などについて広い視野を身につける。	A-1 社会、経済、法学、哲学、歴史、文化、言語など社会科学および人文科学に関する基本的な事項について説明できる。	「英会話」、「第2外国語I」、「第2外国語II」において、日本以外の国の文化、言語の基本的な事項について理解させ、それを試験で評価する。 「法学」において、法学一般の基本的な知識について、正確に、論理的に説明できるか、年4回の中間試験・定期試験およびレポートで問い、その正確さ、論理性的な水準をもって評価する。 「経済学」において、経済学の基礎的な用語や概念、事項を知識として正確に説明出来るかを、授業中の口頭での試問やレポート、各試験で評価する。 「哲学」において、倫理学の基本的な事項(語源的な意味等)について正確に説明できるかどうかを、各試験とレポートによって評価する。 「日本史」において、戦国社会理解に必要な基本的用語・制度などの知識に関して正確に、論理的に説明できるか、年4回の中間試験・定期試験で問い、その正確さ、論理性的な水準をもって評価する。	「英会話」、「第2外国語I」、「第2外国語II」、「法学」、「経済学」、「哲学」、「日本史」から2科目4単位以上選択
	A-2 社会科学および人文科学における概念や方法論を認識できる。	「法学」において、法的なものの考え方(リーガルマインド)の理解度を年4回の中間試験・定期試験およびレポートで問い、その理解度の水準をもって評価する。 「日本史」において、特定の制度や出来事あるいは一定の史料から、どのような戦国社会の特質を導き出せるかについて、年4回の中間試験・定期試験で論理的説明を求め、解釈の正確さ、論理性的な水準をもって評価する。 「哲学」において、現代社会における環境倫理思想の基本的な論点について正確に理解しているかどうかを、各試験とレポートによって評価する。 「経済学」において、20世紀の日本および世界の経済発展の歴史を適切に把握し説明できるか、また、経済学の基礎的な用語や概念、事項を活用して21世紀の経済社会について自己の見解を持てるかを、授業中の口頭での試問やレポート、定期試験で評価する。 「中国文化論」の授業で、漢語の概念および漢籍の操作法に関する基本的な事項を認識させ、理解度を定期試験で評価する。 「現代日本経済論」において、社会科学としての経済学の特有の方法を理解し、21世紀の日本経済、世界経済について多様な観点から考えることが出来るかをレポート、口頭での試問、試験で評価する。	
	A-3 地球環境や社会における問題点を整理し、社会科学および人文科学の知識、概念、方法論に基づいて多様な観点から考えることができる。	「技術者倫理」において、社会や自然環境における倫理問題や技術者の責任を論理的、歴史的側面からも考え、それをレポート提出させ評価する。 「現代日本経済論」において、経済発展にともなう地球規模での諸問題(環境問題、公害、農業・資源、国際金融など)についての知識を正確に説明できるかをレポート、口頭での試問、試験で評価する。 「中国文化論」の授業において漢籍に見られる人間性の在り方と社会体制との関連を考察させ、その考察の水準を定期試験で評価する。	
(B) 倫理と責任: 技術者としての倫理観や責任感を身につける。	B-1 技術者倫理、技術史、関係法規、安全工学、リスクマネジメントなどに関する基本的な事項について説明できる。	「技術者倫理」において、倫理学の基礎理論、技術史の基礎知識、倫理関係法規、倫理綱領を学び、それをレポート提出させ評価する。 「品質システム工学」、「安全工学」において安全管理、リスクマネジメントなどについての基礎知識を習得していることを課題のレポートで評価する。	
	B-2 環境問題の論点を整理し、技術者倫理と工学の知識に基づいて問題を分析できる	「技術者倫理」において、地球環境問題について学生に事例研究させ、他者と協力して行った問題の分析結果や解決策を発表させ評価する。	
	B-3 技術が自然や社会に与える影響を理解し、現代社会における技術の問題を認識したうえで、技術者としての社会的責任を考慮することができる。	「技術者倫理」において、現代社会における技術の問題と社会や自然環境に対する技術者の責任についての考えをレポートにまとめさせ評価する。	
(C) コミュニケーション: 日本語で記述、発表、討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の基礎能力を身につける。	C-1 自分の考えを論理的、客観的にまとめてプレゼンテーションができる。	「卒業研究」、「学外研修」、「特別研究」において研修報告会、中間発表、論文審査会を実施し、複数教員で、プレゼンテーションの能力を評価する。	
	C-2 相手の意見や主張を理解し、自分の考えをまとめて討論できる。	「卒業研究」、「学外研修」、「特別研究」において、研修報告会、中間発表、論文審査会を実施し、複数教員で、討論に関する能力を評価する。	
	C-3 自分の考えを論理的に日本語の文章で記述できる。	「国語」、「日本語表現法」、「現代日本経済論」、「中国文化論」の授業で、論理的な論述方法を理解させ、理解度を各試験およびレポートで評価する。	
	C-4 英語で書かれた論文などを正しく読解し、その内容を日本語で説明できる。	「英語C」、「応用英語I」、「応用英語II」、「特別演習」の授業で試験や課題などを実施することにより、与えられた英文の内容がどのくらい正確に把握できたのかわかるかを、日本語を通して表現させ、評価する。	
	C-5 英語で簡単なコミュニケーションをとることができる。	実用英検準2級若しくはTOEIC団体特別受験制度に基づいて学内で実施される試験によって評価する(評価基準はTOEIC400点相当以上とする)。「異文化コミュニケーション」の授業において、英語による自己紹介や意見陳述(情報交換)などにおける英語のコミュニケーション能力を評価する。	
(D) 工学基礎: 数学、自然科学、情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける。	D-1 線形代数、解析、確率・統計などの工学に関連する数学の基礎的な問題を解くことができる。	「解析」では常微分方程式と複素関数について、「応用数学」では確率・統計とフーリエ解析等について理解・習得させ、基礎的な問題を解く力を中間試験と定期試験で評価する。「応用数学特論」では固有値問題を中心とする線形代数とベクトル解析について、「応用数学特論」では常微分方程式、振動系と線形代数の関連、線形偏微分方程式について理解・習得させ、基礎的な問題を解く力を定期試験で評価する。	
	D-2 物理、化学、生物学等の工学に関連する自然科学の基礎的な問題を解くことができる。	「熱統計力学」において、熱力学と統計力学の計算演習等をレポートとして提出させて恒常的学習を促し、定期試験で全体の評価を行う。 「ライフサイエンス」の授業で、生命とは何かについて化学と生物学の知識を使って理解させ、理解度を定期試験で評価する。 「応用物理」の授業で物理の基本法則と問題の解法を説明し、レポートを提出させて学習を促し、理解度を中間試験・定期試験で評価する。 量子論」の授業でその必要性と基本法則と問題の解法を説明し、レポートを提出させて学習を促し、理解度を定期試験で評価する。	
	D-3 情報技術に関する知識を活用できる。	「マルチメディア工学」の授業で、学習した基礎理論を理解するための一助として、一般的なプログラミング言語で実装させた上で実行・考察させ、ソースコードや実行結果等について報告書を提出させて評価する。	

学習・教育目標	関連する基準1(1)(a)～(h)の項目	評価方法	備考
	D-4 数学,自然科学,情報技術および工学の基礎知識を応用し,設計・システム系,情報・論理系,材料・バイオ系,力学系,社会技術系の工学的問題を解決できる。	(d) 1(e) 別に定める 設計・システム系科目群, 情報・論理系科目群, 材料・バイオ系科目群, 力学系科目群, 社会技術系科目群の各科目において( ), 数学,自然科学,情報技術および工学の基礎知識の各科目への応用力,工学的問題の解決能力を問う課題を与え,レポートあるいは各試験で評価する。	設計・システム系科目群, 情報・論理系科目群, 材料・バイオ系科目群, 力学系科目群, 社会技術系科目群の各群から1科目,合計6科目以上を選択。
(E)継続的学習:技術者としての自覚を持ち,自主的,継続的に学習できる能力を身につける。	E-1 技術の変化に関心を持ち,自主的に新たな知識や適切な情報を獲得できる。	(e)(g) 「卒業研究」「特別研究」において,研究テーマに関する自主的な文献調査の状況によって評価する。	
	E-2 工学知識,技術の修得を通して,継続的に学習することができる。	(e)(g) 「卒業研究」「特別研究」において,研究テーマの提示,中間発表会,審査会を通して,継続学習の評価を複数教員により実施する。	
(F)専門の実践技術:もの創りに関係する工学分野のうち,選択した領域の専門分野の知識を持ち,基本的な問題を解くことができる。	F-1 ものづくりや環境に係る工学分野のうち,選択した領域の専門分野の知識を持ち,基本的な問題を解くことができる。	(d) 2a 電子・生産システム工学専攻および環境システム工学専攻ならびに各専門学科で定める別表の当該学習・教育目標に対応する専門科目において,各専門工学分野における基本的な問題の解決能力を,レポートあるいは各試験で評価する。	
(F)専門の実践技術:もの創りに関係する工学分野のうち,得意とする専門領域を持ち,その技術を実践できる能力を身につける。	F-2 実験,演習,研究を通して,課題を認識し,専門知識と技術を生かして解決案を考えることができる。	(d) 2d(e) 「学外研修」「特別実験」「特別演習」「卒業研究」「特別研究」において,報告書の提出,成果発表を行わせ,課題を正しく認識し解決案を考えられたかを評価する。	
	F-3 問題解決のための実施計画を立案・実行し,データを正確に収集して適切な方法により解析できる。	(d) 2d(e) 同上	
	F-4 得意とする専門領域の技術を実践した結果を工学的に考察して,期限内にまとめることができる。	(h) 「卒業研究」「特別研究」において,期限内に論文を提出させ,その内容について複数教員で評価する。	
(G)複合領域の実践技術:他の専門領域も理解し,自身の専門領域と複合して考察し,境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける。	G-1 自身の専門領域に加えて,他領域の基礎的な実験ができる。	(d) 2b 「特別実験」において,自身の専門領域以外のテーマの実験を行わせ評価する。	
	G-2 自身の専門領域の技術に,他領域の知識と技術を複合し,問題に創造性を発揮して取り組み,解決の方向へ進めることができる。	(d) 2c(e) 「創造工学」において,講義メモにおける作品の設計に対する複数技術分野の検討結果を評価する。また,作品の完成度によって評価する。	
	G-3 複数の専門領域に関する知識と技術を用いて境界領域を認識できる。	(d) 2b(d) 2c(e) 「特別実験」または「特別演習」において,自身の専門領域以外のテーマの実験または演習を行い,当該科目の単位を修得すること。	
	G-4 苫小牧の地域性を考慮し,自らの専門分野との関わりを考えることができる。	(d) 1 「防災工学」において災害の特徴を理解し,自身の専門分野の知識を防災にいかにか活用することができるかについて,レポートを提出させて評価する。	
(H)社会と時代が求める技術:社会や時代が要求する技術を工夫,開発,システム化できる創造力,デザイン能力,総合力を持った技術を身につける。	H-1 社会が要求する技術課題を広い視野でとらえ,システム,プロセス,製品について,与えられた条件下でより良い設計や解決案を立てることができる。	(d) 2d(e) 「学外研修」において実務訓練を行わせ,企業において示されたテーマの問題点を明らかにし,その解決案を制約条件下で立案しているかを,その報告書から複数教員で評価する。「エンジニアリングデザイン」において,「もの」を発想し製造するまでのプロセスで,既に履修した様々な専門分野との関連を理解しているか,コストの抑制や意匠を考慮することができるかを試験,レポートにより評価する。また,制約条件下でより良い解決案を見つけ出すための課題を与え,現状分析や課題の明確化についてのレポートを提出させ評価する。	
	H-2 寒冷地でのエネルギー・環境技術の現状と課題および将来動向について概説できる。	(a) 「寒地環境工学特論」において,寒冷地でのエネルギー及び環境技術の調査を行わせ,レポートを提出させて評価する。	
(I)チームワーク:自身の専門領域の技術者とは勿論のこと,他領域の技術者ともチームを組み,計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける。	I-1 共同作業による責任と義務を共有し,状況に応じてリーダーやスタッフなどの役割を果たすことができる。	(e)(f)(h) 「創造工学」において,設定されたテーマに沿った作品の製作を行い,授業の中で教員が取り組みに対する姿勢,解決の方向への進め方を評価する。	
	I-2 グループ内の複数の意見を集約して,実行へ移すための計画案を提案し,合意された事柄に対して協力できる。	(e)(f)(h) 「創造工学」において講義メモからグループ内の意見の集約状況,あるいは制作物の推移状況,あるいは完成物によって評価する。「体育」の評価方法及び基準のうち「集団行動力」に関して,計画的かつ円滑なスポーツ活動を行うために学生同士(種目間グループ・種目内グループ)の話し合い及び活動に用いられた資料及び実際の活動状況について,複数教員による可否の評価を行う。	